

# めぐみイエス・キリスト教会

2021年10月31日(日)第五主日礼拝  
週報「通算第581号」



## 2021年標題聖句

ヨハネの福音書20章21節～22節

《イエスは再び彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父が私を遣わされように、私もあなたがたを遣わします。」こう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。』》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実  
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

## ◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌258「墨よりも黒き心なれど」 p. 402

【交読文】 No.12詩篇第33篇 p. 888

【賛美Ⅱ】 新聖歌172「望みも消え行くまでに」 p. 248

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.9「ひとつの心」

【聖書朗読】 使徒の働き13章4節～12節(新約p. 259下段)

【礼拝説教】 《地方総督セルギウス・パウルス》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

### ●ポイント1. 「キプロス島」とは？

■キプロス 「銅」という意味。地中海の東端にある大きな島の一つで、セルキヤの海岸から65.6キロの所にある。東西176キロ、南北48～80キロの大きさであり、北東隅から9キロの幅で長さ64キロに及ぶ岬が突出している。島は銅鉱に恵まれ、キプロスという名がついた。

キプロスの教会は、サウロによる最初の迫害の逃亡者によって増加した。パウロとバルナバはサラミスからパポスまでこの島を旅行した。その後バルナバは、マルコを伴って、キプロスを再訪問している。

※使徒の働き4章36節「エルサレム教会の初期に」(新約p.240下段)

4:36 キプロス生まれのレビ人で、使徒たちにバルナバ(訳すと、慰めの子)と呼ばれていたヨセフ。

## ※コロサイ書4章10節「バルナバとマルコとの関係」(新約p406下段)

4:10 私と共に囚人となっているアリストアルコと、バルナバのいとこであるマルコが、あなたがたによろしくと言っています。このマルコについては、もし彼があなたがたの所に行ったら迎え入れるように、という指示をあなたがたはすでに受けています。

## ●ポイント2.「バルナバとサウロによるキプロス伝道」とは？

■**サラミス** 地中海東部に位置するキプロス島の東海岸にあった都市。新約時代には、西部にあった首都パポスに次ぐ大きな町であった。バルナバとサウロは第1回伝道旅行の折、まず最初に、この島を訪れ、ユダヤ人の会堂で説教した。バルナバはこの地に葬られているという言い伝えがある。

■**パポス** キプロス島南西岸の港町。ローマ帝国はここに行政府をおき、地方総督を常駐させた。第1回伝道旅行の折、バルナバとサウロは時間をかけて熱心に伝道した。この地での宣教活動は大いに祝福され、ローマ総督セルギウス・パウルスも信仰に導かれた。後にバルナバらの再訪などによってさらに、キプロス教会は成長した。

## ●ポイント3.「地方総督セルギウス・パウルスと魔術師エリマ」とは？

■**セルギオ・パウロ** バルナバとサウロが第1回伝道旅行でキプロス島に渡った時、キプロスの地方総督であった。彼に伝道しようとしたサウロの邪魔をした魔術師エリマが、サウロによって盲目にされた出来事を見て、彼は驚嘆して信仰に入ったとルカは報告している。

その名前からして、古いローマの元老家系の出であることが分かる。クラウディウス帝の時代にテベレ河畔の管理官の一人であった。

## ※ローマ書8章28節「使徒パウロの確信の言葉から」(新約p.310下段)

8:28 神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人たちのためには、すべてのことが共に働いて益となることを、私たちは知っています。

## ◎先週の礼拝メッセージの概要【アンティオキア教会】

《アンティオキアとは、ローマ帝国シリア州の首都であり、ローマ、アレクサンドリアに次ぐ第三の商業都市で、人口は約50万人とされています。

さて、アンティオキア教会はバルナバによって形成された教会です。彼は立派な人物で、聖霊と信仰に満ちており、慰めの人と呼ばれた様に、彼の人柄によって、愛と慈愛に満ちた教会が建てあげられました。

バルナバは、二年間孤軍奮闘しますが、タルソにいたサウロを迎えに行き、連れて来ます。そして二人は、まる一年の間、大勢の人たちを教え導きます。また、主は素晴らしい同労者をさらに与えて下さるのです。

まず、「ニゲルと呼ばれるシメオン」です。彼はアレクサンドロとルフオスの父で、主イエスの十字架を無理やり背負わされた人物でもあります。

次に「クレネ人ルキオ」です。略称はルカです。パウロと行動を共にし、福音書と使徒の働きを執筆した医者ルカと同一人物とされています。

そして、「領主ヘロデの乳兄弟マナエン」です。乳兄弟とは、ヘロデ大王によって、次男アンティパスと共に、幼い頃から一緒に宮殿内に育ち、共に教育を授かった者であるということです。この人物がアンティオキア教会に導かれた詳しい経緯は分かりかねますが、国主ヘロデ・アンティパスが追放された時か、あるいは、ヘロデ・アグリッパが急死した時に、宮殿から離れたとも考えられます。しかし一つの疑問が残ります。いったい宮殿や王室の仕事に携わっていたマナエンが、いつ主イエスを信じる信仰を持ったのか、ということです。ヨハネの福音書には、「第二のしるし」として、「カペナウムの役人の息子のいやし」の記事が掲載されています。この役人は、直接、主イエスに会っています。しかも、危篤状態であった息子を奇跡的に癒してもらったのです。その時、「彼自身も家の者たちもみな信じた」と書かれており、この人物こそがマナエンである事は疑いのないことだと思われれます。それゆえ、福音書に宮廷内に起こった出来事が、詳細にわたって書かれているのです。紀元70年の後、教会の中心はエルサレムから、アンティオキアに移って行くことになるのです。》

## ◎お知らせ

※第一主日礼拝は11月7日(日)午前10時から教会で行ないます。